

なスペースを設けておりますので、全体として十分にご活用いただけるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

被災地だけでなく、駅北全体を考えて、糸魚川らしさを出す工夫も必要ではないかというふうに思います。

終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を3時30分といたします。

〈午後3時20分 休憩〉

〈午後3時30分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、県施設の供用について。

1月25日の広報で青海シーサイドパーク「ドームなぎさ」が、ジュニアスポーツ団体の練習等に開放となりました。その経緯について伺います。

(1) ドームなぎさは、県の施設で公園施設と聞くがどうか。今までスポーツに使用できなかった理由は何か。

(2) 市内に県所有の施設は高校などと思いますが、ほかにもあるのか。

(3) スポーツ施設として高校施設の開放があると思うが、現状の利用状況はどうか。

県を含めた財政を考えたとき、それぞれが連携して供用できるものは供用することが必要と思うがどうか。そのための方策を考えているか。

2、市職員の定員適正化計画について。

合併後、新糸魚川市となり市職員の定員適正化計画が作成されました。本年度末にも多くの退職

者がいます。そこで、その現状を伺います。

- (1) 目標人数は正職員数だけか。適正化の目標は、何を根拠に作成されたのか。市が行うべき業務、仕事量を考慮されていたか。合併当時の仕事量と、現在の仕事量の比較はどうか。
- (2) 現状に対する市長の評価はどうか。
- (3) 今後、人口減少社会において行政も議会も人数を減らしていかなければならない時代だと考えています。そこで、行政として行うべき役割・業務を明確にし、仕事量を減らしていかなければならないと考えるがいかがか。
- (4) 専門職のなり手不足と聞くが、その対応はどうしているか。
- (5) 市職員の長期療養状況について伺います。他の事業所等と比べて、その比率をどう捉えているか。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2 番目の1 点目につきましては、目標人数は、正職員を対象として、総務省の指標をもとに人口と面積を基準に作成されております。また、仕事量は、合併時と比べ、行政課題やニーズの多様化など、職員個々にかかる負担はふえていると認識いたしております。

2 点目につきましては、適正化を進める中で、行政サービスを充実し、さまざまなニーズに対応できるよう努めております。

3 点目につきましては、仕事の内容によっては、民間活用を図るなど、職員の負担を減らすことを考えていかなければならないと考えております。

4 点目につきましては、専門職では全国的に不足している職種もあり、採用が難しい状況であることから、今後、やりがいや糸魚川のよさをPR する中で採用方法や育成方法等を検討してまいります。

5 点目につきましては、当市の29 年度の30 日を超える長期療養者は2.41% であり、県内他市の平均値と同様であります。長期療養となる職員が減少するよう引き続きメンタルヘルスも含めた健康管理に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の1 番目のご質問にお答えします。

1 点目につきましては、県が整備し、市が管理運営している施設であります。本施設は、不特定多数の方が利用する休憩施設であり、利用者の安全を確保するため、ドーム内での球技等について禁止してきたものです。今回の施設開放については、ジュニア・スポーツ団体等から、特に冬期間での施設利用の要望があり、試行的に開放したものであります。

2 点目につきましては、スポーツ施設ではほかにありません。

3 点目につきましては、市内の3高校から体育施設を開放していただき、今年度は、7団体が定期利用をしております。今後も県の協力をいただき、体育施設のさらなる開放に向け、努めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

じゃあ県施設の供用についてからお伺いいたします。

県の、いわゆる不特定多数の休憩施設という考え方ですけど、確かにそういう形でできたんだと思うんですけど、私この時代になって、やはり財政も厳しい中、例えばこれはスポーツだ、これは休憩室だという時代は、もう終わったんじゃないかと思うんですね。例えばその施設、休憩は休憩でいいと思うんです。ただし、例えば小学生が4時ぐらいに帰りますかね、それで夕方の6時ぐらいまで、その間は、例えばスポーツして使っていていいよとか、時間的にもそんな感じで使っていくべきではないかと思うんですけど、その点どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

猪又青海事務所長。〔青海事務所長 猪又 功君登壇〕

○青海事務所長（猪又 功君）

お答えいたします。

ドームなぎさにつきましては、休憩施設ということで整備をしていただきました。不特定多数の方が休憩する目的の施設でございますので、そこで球技等をした場合には、危険が及ぶということで、これまで禁止をさせてもらってきました。

今回につきましては、冬期間ということで余り休憩利用される方がおられないということで、期間を限って時間帯を決めて、その期間だけスポーツの練習に使っていただくような形で試行的に開放をさせてもらったものであります。今後につきましては、議員ご指摘の点についても、まだ検討の課題なのかなと思っておりますけれども、基本的にはやはり休憩施設ということでは変更できないものだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

今回の、いわゆる冬期間の暫定的なとか試験的なということで、ご苦労いただきまして本当

にありがとうございました。私はやっぱり先ほども言ったように、県の施設、これ市の施設も同じだろうと思うんですね。やはりいろんなほうに猶予して、時間的な配分だとか、季節的な配分だとか、そうしていかないとなかなかやっぱりこれからの財政を考えたときに厳しいというふうに思っています。

そこで、高校のほうをちょっと伺いたいと思いますけど、高校も今7団体で開放というふうに言われていますけど、実際に高校で海洋高校、糸魚川高校、白嶺があるんですけど、貸し出しのレベルが若干違うというかね、開放する施設が違うように思うんですけど、その点、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

3校ともそれぞれ開放時間等が違っておまして、糸魚川高校さんにつきましては、大体育館、開放日が火曜日、水曜日、金曜日、開放期間につきましては、5月から翌年2月末までであります。白嶺高校さんにつきましても同様、5月から翌年2月末まで、グラウンド、柔剣道場、大体育館。海洋高校さんにつきましては、大体育館と小体育館、開放期間につきましては、4月から翌年3月末までとなっております。開放日につきましては、海洋高校さん、火曜日と木曜日でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。やはり学校の行事が主ですので、例えば糸魚川の市立の学校も同じことだと思うんですね、中学校当たりも。その点でももっと何か使えるような方策があるんじゃないかというように考えます。そういうことで、逆に言いますと、相手が県ですし、市内においても同じかもしれません。県ですので、ただ県のほうからどうぞ使ってくださいということは、まず言わないというふうに考えるんですけど、こちら側からやはりもっと使えないかというようなことをやっぱり進めていく必要があるんだと思うんですね。市の大きさからいって、例えば陸上競技場、野球場持ってますけど、例えば柔道場なんかありません。そういうことを考えたときに大きな市は、大体持ってるかと思うんですけど、その点をやはり県と供用ということは絶対に必要だというふうに考えますので、県への働きかけ、何か考えたことございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

県立高校の体育施設の開放につきましては、県のほうから要望の取りまとめを、毎年、依頼され

ております。2月に要望の取りまとめがありまして、その要望団体等と、今度4月に入って重複する等の利用申し込みがあった場合におきましては、利用調整並びに使用の規定等の打ち合わせ等をやることになっておりまして、引き続き、県のほうの開放に向けた取り組みについては、引き続きお願いしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

市内の体育施設、いわゆる体育館だとかいろんなことがあるとは思いますが、それと県、いわゆる高校の、いわゆるそういう施設ですね、その利用の割合でいうと、どれぐらいの感じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

現在利用されている7団体につきましては、ここ数年ずっと同じような団体が使っておりまして、バスケットボール、柔道、空手、フットサルといった比較的といいますか、使いなれてる団体が使っておりまして、使用頻度の高い団体においても週2回が一番最多ですので、ほかの体育施設、総合体育館であれば、毎日開放してるようなところがありますが、高校につきましては、全日開放ではありませんので、その開放日に合わせた格好で使ってる団体が主だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

今、市内の、いわゆるスポーツ団体のほうで、逆に言いますと市の設備も含めてもっと使用したいというような要望はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えします。

今のところそこまでの要望等は聞いておりません。利用調整会議ということで、定期的に利用される団体等との調整会議がありますが、そこにおいても回数等については、例年並みで調整しておりますし、ダブった場合については、お互いの相談で調整をさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

ぜひともシーサイドパークのドームなぎさ、ぜひともこれ、通年とは言いませんが使えるように、今後も試験からやっぱりそういうふうなものにしていただきたく努力していただきたいと思います。

私は、市の財政が厳しいものがあります。市内のスポーツ施設は、満足とは言えない状況だと思っております。しかし、そのためには、県の施設の有効活用が必要と考えます。

例として、市内には柔道場がありません。山田市長のときに、我々、武道会というものをつくって要望したことがあります。例えば柔道は特別な競技で、畳が必要です。ここは普通の体育館で上げ下げなどはかなり厳しい状況です。そのため現在は、白嶺高校の柔道場を借りて練習をしております。

現在、少子化などにより、人口減少や市の財政を考えたときに、新たな施設をつくることは、困難な時代になったというふうに考えております。県の施設を供用することが絶対に必要な知恵だと思います。

しかし、問題はあります。例えば先ほどの柔道場の借用です。使用時間は、ほとんど夜であり、道場には更衣室やトイレがありません。トイレは校舎内にあるため、使用できない状況です。そこで、市はその道場のそばに更衣室とかトイレをつくることも一案ではないか、知恵が必要だというふうに思っております。県等の施設を使用する場合、管理を校長に委ねられてるため、校長がかわると使用できなくなるケースもありました。当然、卒業式や入試時、入学式などの場合、使用できません。先ほどの答弁の中で5月から2月、いわゆる3月、4月の時期にはもう使用ができないという回答だと思います。校長や県側からしても使用していただきとは、さっきのように言わないと思います。ぜひとも市として県に働きかけ、有効に供用できるようにしていただきたいというふうに思っております。

先ほど言いましたように高校以外の施設も、施設の目的外の使用であっても柔軟に使用できるように働きかけることが必要だと思います。現在、市内の3つの高校と関係が良好な関係にあるというふうに思っています。ぜひとも供用に向け、時間も、いわゆる時期も含めてもっと努力して考えていただきたいというふうに考えてます。この件について、市長のご見解をちょっとお伺いしたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、現状をお聞かせいただき、内容わかりました。そういう中で、やはり同じ市民、皆、今非常にスポーツの練習に苦慮されておるということをお聞かせいただいたわけですので、その辺の解消をどうやっていくか、また、担当課と検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

ぜひともよろしく願いいたします。

次、2番目の大きな市職員の定員適正化計画について伺います。

先ほどの中で、総務省の面積だとか、いわゆるそういうふうなものを基本というようなことで理解いたしました。現在の状況はいかがでしょうか。大体計画どおりにというふうに考えているんですけど、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、計画の範囲の中で努力をしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

この3月で退職者は、それで、新たに4月から入ってくる、そこらあたりの人数はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現段階であります、退職が24、新しく採用する職員が13名となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

先ほど保坂議員のほうから、いわゆる車の話が出てました。そういう面では、何をやっとするんだというか、そんな感じのふうにつえられるんですけど、まさにそのとおりだというふうに思うんですけど、私は仕事の忙しさがかなりあるんじゃないかと。実際に市の職員からいろんなお話を聞くと、今頑張ってるよと。でももう二、三年とか、もうそれぐらい何年かしたときには、もう我々、目いっぱいでお手上げ状態だよという話はよく伺います。その点を考えたときに、やはり仕事量を減らしていかないとパンクするんじゃないかというふうに考えるんですけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

仕事量を減らすといった中には、やはり仕事の仕方を見直すと。いわゆる生産性をどう上げていくかというのも1つの材料だと思っております。そうした中で、秋口から職員を対象に生産性向上研修であったり、タイムマネジメント研修であったり、達成力強化研修といった研修をやっております。こうした中で資質を高める中で、生産性の向上も合わせて進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

私、今の件は、まともにそういう答えになるのだなと思うんですけど、本音でいいますと、さてどうなのかなと。

今最近、バイトテロということがありますよね。多分バイトに雇われる方は、面接の段階で頑張りますと言うんだと思うんです。

でも心の中はどうか。ただ、いわゆるインスタ映えするとか、そういうこともあるのかもしれませんが。でも正社員とバイトの間に差があるから、そういう鬱憤をという報道もありますし、そういう心理状態も実際にあるんだと思うんですね。市においても正職員と、いわゆる臨時と言われる部分、いろんなものがありますし、もっと言うと、やってられないよという部分が、やっぱり心の中に出てきてるんじゃないか。それが先ほど保坂議員の言うように、いろんなところでこういうものはミスだとか、そういうものを招いてるように感じざるを得ないんですけど、その点はどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

内容についてきちんと精査したわけではありませんけど、そういった部分もあるかもわかりませんが、しかし、基本的にやはり法令遵守であったり、しっかりと職務があるわけなんです。その中でしっかりやっていくことが、市職員としての努めだというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

サービスの質をちょっと伺いますけど、よく市内でいいますと糸魚川の、いわゆる窓口ですね、市民課の窓口がサービスが悪いよとか、どうだこうだというふうなよく話を聞きます。

でも、先日ある方が、都会のほうから出てきました。転出届に1時間かかったそうです。糸魚川



へ来て、転入届を出すときに、そこで転入届、多分、健康保険の関係なんですよ。同じ窓口でやっていただけ。糸魚川サービスいいですね。やっぱりそういう話も聞きます。ですから、確かにいろんなレベルの、いわゆるサービスのレベルがあるんだと思うんですね。限りないサービスを求めるのか、それともこの程度でいいのかということを決めてくのも大事なことでないかと思うんです。

同じように、私もはびねすへ行きます。はびねす行くと、今ちょうど工事中で、駐車場の話が出てきます。駐車場が何だ、あんなになくてというような、出てます。私はもっと寛容になってくださいよ、工事期間だけは我慢してくださいよと言いますが。それから始まって、例えば水道工事の後に水が汚れてって何やってるんだとか、やっぱりそういうふうなものがあると思うんですけど、やはりそれはサービスのレベルを決めてないというか、わかってないような気がするんですね。そういう面では、市の職員のほうも市のやっぱりサービスのレベルというものを決めていかないと、言われるとおりに本当に大変になるんじゃないかというふうに考えるんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさにニーズの多様化、それから市民意識の多様化ということで、いろんな考えの方がいらっしゃるかと思います。

ただ、ある意味、水準も合わせながら、かといって、市民の皆さんに寄り添うといった考えも必要だと思っています。そのあたりの折り合いをどうつけてくかというのが、今、現在の課題だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

先日、糸魚川市行政改革推進委員会でしたかね、それを傍聴させていただきました。その中で6つの推進項目の中で、第1項で市民目線に立った行政サービスの向上となっております。確かに、これこうやって書くのが普通なんでしょうけど、私はもうサービスの向上、これ以上の向上は望めるんでしょうか。市の職員の数、財政も含めて本当にこれ以上の向上が求められるんでしょうか。私はむしろ、逆に今後は本当に財政も人員的にも無理だと思うんですね。やはりこれだけのものしかできませんよ。これだけの財政がないからできないんだということを宣言することがというふうに考えるんですけど、市長、いかがでしょうか、その点。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

しかし、議員がご指摘の点については非常に我々も理解もする部分がございます。

しかし、本当に行政の最前線、市民生活のやはり我々、基礎自治体、市町村というのは、おるわけでありまして。そういう中でやはり住んでおられる方は、基礎自治体の住人であるわけでございますので、やはりそういう人たちが、ここで生まれて育って、ここでこの生活をしとるわけでございますので、住みやすい、そしてまたここがやはり一番いいんだという、住んでいたことを考えたときには、やはり国・県よりも寄り添っていくべきというのが基本でなかろうかなと思っておりますので、その辺をお互いに、先ほどお答えさせていただきましたが、市民とお互いに相互の中で理解を得た中で、いろんなものは判断し、決定していかなくてはいけないんでないかなと思っております。確かに今そういう環境にあります、その辺をいかに市民に理解していただくかという努力をした上での、そういった形になるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

4番目の、いわゆる専門職のことでお伺いいたします。

最近、国のほうで、いわゆるガス・水道の関係で民営化という話の中で技術者がいないんだという話がありますけど、糸魚川の場合はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

水道ということではないんですけども、今年度、土木職の募集をしましたが、応募者がおりませんでした。昨年度は、応募者があって、合格も出したんですけども、ほかの自治体にとられてしまったといった状況で、特に土木職について、今採用するのは難しい状況となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

木村ガス水道局長。〔ガス水道局長 木村 清君登壇〕

○ガス水道局長（木村 清君）

お答えします。

ガスの関係ですと、ガスの責任技術者というのが必ず必要になります。糸魚川の場合は、4人必要なんですけど、ガスの局には4人おる状態で、逆に言うと4人しかいないので、新たな資格取得に向けて、職員進めてるという状況でございます。

水道についても、そこで採用になって、長いことそこですと、後、試験といいますか、受けて、取っておりますので、現在もおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

昨年、一昨年でしたか、我が家の水道がやっぱりメーターが上がってたんですね。市の職員のほうから、私いろいろこうやって聞いたりしたけど、なかなかわからないんですけど、職員の方が来ると、ここ漏れとるよ。やっぱりすごいなど。そういう面では、経験なり技術がかなり要るんだろうと思うんですね。これ家庭用のあれですけど、本管なんかも含めてそういうことだろうと思います。ぜひともここらあたり、技術の関係は本当に計画していかないと根本から大きな問題になるかと思しますので、努力していただきたいと思います。

次に、長期療養のほうで、先ほどの比較の中で、他の市町村とというふうに比較されたと思うんですけど、逆に言うと、市内の事業所関係とは比較されたものはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご指摘の点について、ハローワークと国の機関にお尋ねしましたところ、調査をしてないという回答でありますし、事業所にも聞いてみたんですけども、お答えできないという回答でありましたので、比較することはできないという状況で、今、自治体の数字を出させていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

他の比較した場合はそうですけど、この中に長期療養にも種類があるかと思うんですけど、その点だけお聞かせいただければと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

大きく分けて2つございまして、精神行動障害、それともう一つが身体、体の臓器等の障害といった部分の2つに大きく分かれております。

失礼いたしました。全体では13人おります。そのうち精神行動障害が8名、身体が5名ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

精神的な方が8人おる。やはりこれらあたりも、いわゆる業務が忙しいとかいろんなことがある

んじゃないかというふうに心配しております。

最後、私は、この糸魚川を活気づけるには、市職員の活力が絶対に必要だと考えています。今、市職員といろいろお話をする機会の中で、現在の状況が、もう二、三年も続ければ、もうパンク状態になるという声も聞こえます。また、市の幹部になりたくないとの声もあります。これ市ばっかじゃないと思います。企業なんかも同じだと思います。こんな状況では、この糸魚川市がよくなるはずがありません。それどころか、もっと怖いのは、市の職員の事なかれ主義、言われたことしかやらない指示待ち族、そんな組織になるやもしれませんし、車検切れの件もその一角ではないかというふうに危惧しております。そのためにも今後、行政が市民のサービスの限界を説明して明確にする必要があると思います。

先日の行政改革委員会を傍聴させていただきました。これさっき言ったとおりです。推進項目の市民目線に立った行政サービスの向上となっています。そのためその委員会の議論も今まで以上の住民サービスの話が多かったように思います。私は、もう今まで以上の行政サービスは、財政的にも人員的にも無理だというふうに考えております。それにも増して、今まで行ってきたサービスも取捨選択していく時代だと考えています。

議会初日の本会議で、松尾議員の今後の財政の話もありました。今の笠原議員のほうでも財政の話がありました。私は、市民にこれ以上のサービスは無理な時代であることを説明し、市民に理解していただき、行政で行う業務、民間が行う業務を明確にすること。また、行政サービスの質にも限界があることを示すべきときだというふうに考えています。

米沢の上杉鷹山の話があると思います。鷹山は大変なところに行って、儉約、いわゆる身を切る部分をやりましたし、新規事業をかなりやっています。100、200ぐらいやって、成功したのは2つとか3つ。ベニバナだとか、絹織物だとか、コイの養殖、それで財政を立て直したというふうに聞いています。

やはり私は、今言ったように行政サービスを落とす、いろんなことですが、やはり市のためのこれからの産業を育成するための、市としての努力が必要だというふうに考えてます。チャレンジが必要だというふうに考えています。市民への説明、そして理解、そして実行がおくれれば、おくれるほど、未来にツケを回し、私たちの子や孫に負担を強いることになるかと確信しています。

昨今もいろんな市町村で行政サービスの打ち切りが報道されるようになってきました。糸魚川市も今までどおりの行政サービスを続けていけば、大変な時代を迎えると思っています。糸魚川市もその時期を迎えていると考えています。今回、市職員の適正から切り込んでみました。ぜひとも財政を含めて、市長のリーダーシップを期待したいと考えます。

これで私の一般質問とします。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さんでした。

〈午後4時08分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員